

## 「神戸市子どもの生活状況に関する実態調査」結果概要

## 1. 調査概要

## (1) 調査の目的

神戸市の子どもの生活状況について実態調査を実施し、調査結果を分析することにより、子どもへの効果的な支援の在り方や、支援を必要とする子どもや家庭に対して確実に支援が届くような方策や仕組みを検証・検討していくことを目的とする。

## (2) 調査対象者

神戸市立学校の小学5年生児童とその保護者、中学2年生生徒とその保護者  
(小学校 163校・分校1校、中学校 82校・分校1校、特別支援学校5校)  
※義務教育学校の前期課程・後期課程はそれぞれ小学校・中学校に含む。

## (3) 調査実施日

調査実施日 令和3年9月1日～17日

## (4) 調査方法

調査対象者（児童・生徒）の所属する学校において調査票の配付及び回収を行った。

## (5) 回収率

調査対象者	対象者数 <sup>※1</sup>	回収数 <sup>※2</sup>	回収率
小学5年生	12,832	10,862	84.6%
小学5年生の保護者	12,832	10,800	84.2%
中学2年生	11,368	9,324	82.0%
中学2年生の保護者	11,368	9,255	81.4%
小学5年生・中学2年生合計	24,200	20,186	83.4%
小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	24,200	20,055	82.9%

※1 対象者数は令和3年5月1日現在の児童生徒数

※2 回収数は学年不明分を除く

## (6) 調査内容

内閣府「令和元年度 子供の貧困実態調査に関する研究 報告書」（令和2年3月）において示された「共通で調査することが望ましい項目」を基本としつつ、神戸市独自の調査項目として家族でお世話が必要な人の状況等に関する項目などを設定した。

○子ども調査票 ※下線は神戸市独自項目

1 本人の性別	10 部活動等を行わない理由	20 <u>子どものはく奪指標（持っているものや使うことができるもの）</u>
2 学習環境	11 <u>家族のお世話</u>	
3 学習習慣	12 食事の頻度	
4 学習成績	13 就寝時間の規則性	21 <u>放課後過ごす場所</u>
5 授業の理解度	14 <u>遅刻の状況</u>	22 <u>放課後ともに過ごす人</u>
6 授業についていけなくなった時期	15 信頼できる大人・友人	23 <u>コロナで困っていること</u>
	16 主観的幸福（生活満足度）	24 <u>まわりの人との関係</u>
7 進学希望	17 <u>自覚症状のある健康状態</u>	25 <u>この一週間の気持ち</u>
8 想定する進学先の理由	18 支援の利用状況	
9 部活動等の状況	19 支援の効果	

※「9 部活動等の状況」と「10 部活動等を行わない理由」は中学2年生のみ設定。

○保護者調査票 ※下線は神戸市独自項目

1 <u>年齢と性別</u>	14 学校行事への参加	24 <u>居住形態</u>
2 回答者の続柄	15 進学の見通し	25 <u>コロナの仕事への影響と負担</u>
3 居住区	16 想定する進学先の理由	26 <u>コロナで利用した制度</u>
4 世帯人数	17 <u>子どもの通学状況</u>	27 精神状態
5 家族構成	18 保護者の頼れる相手	28 <u>健康状態</u>
6 親の婚姻状況	19 暮らし向き（主観）	29 <u>家族の状況</u>
7 ひとり親の養育費受取状況	20 世帯収入	30 <u>子どもの障害の状況</u>
8 家族で使用している言語	21 滞納・欠乏経験	
9 親の学歴	22 <u>親から見た子どものはく奪指標（経済的理由で子どもにできなかったこと）</u>	
10 親の雇用形態		
11 就労していない理由		
12 幼児期の教育		
13 保護者の関わり方	23 支援の利用状況	

(7) 調査結果を読む際の留意点

- ・図の「n=○」はその設問の有効回答数を示している。
- ・回答の比率（％）は、小数点第2位を四捨五入しているため、単一回答の数値の合計が100%にならない場合がある。

## 2. 調査結果

主に「等価世帯収入の水準別」と「世帯構成別」の観点により生活状況の分析を行った。

等価世帯収入（世帯の年間収入を、同居家族の人数の平方根で除したもの）は、内閣府による中学2年生のいる世帯を対象とした令和3年12月公表の「令和3年子供の生活状況調査の分析 報告書」（以下「全国調査」という）と同様に、下記の通り区分した。

本調査における等価世帯収入の中央値は、小学5年生のいる世帯及び中学2年生のいる世帯ともに325.00万円であった。なお、全国調査（中学2年生）における中央値は、317.54万円であった。

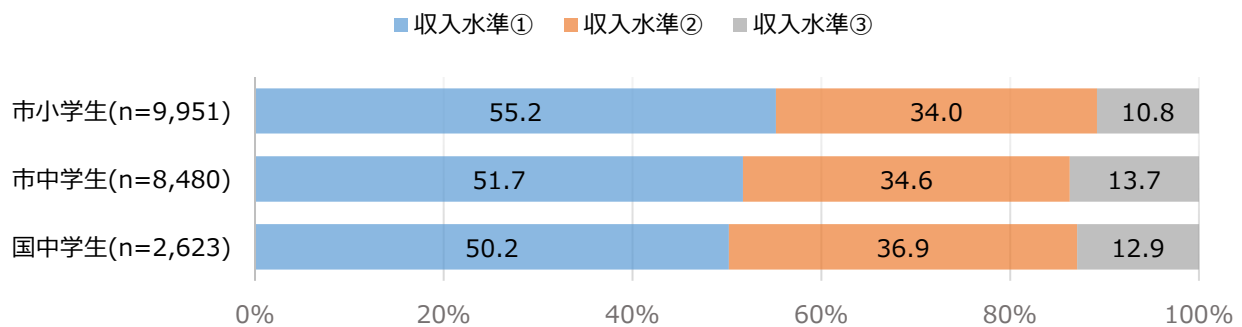
区分	等価世帯収入
収入水準①（中央値以上）	325.00万円〔317.54万円〕以上
収入水準②（中央値の50%以上中央値未満）	162.50万円〔158.77万円〕以上 325.00万円〔317.54万円〕未満
収入水準③（中央値の50%未満）	162.50万円〔158.77万円〕未満

※収入が無回答であった世帯を除く

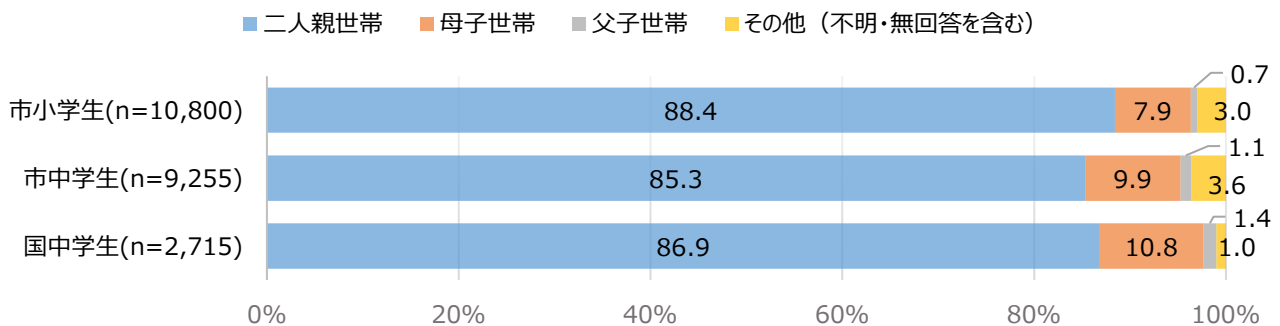
※〔 〕内は、全国調査の数値

世帯構成は、「二人親世帯」「母子世帯」「父子世帯」に区分した。なお、「父子世帯」については、回答数が少ないことに留意する必要がある。また、全国調査の報告書では、父子世帯のみの集計は行っていないことから、数値を掲載していない。

### ● 等価世帯収入〔保護者調査票問4・問20〕



### ● 世帯構成〔保護者調査票問5・問6〕



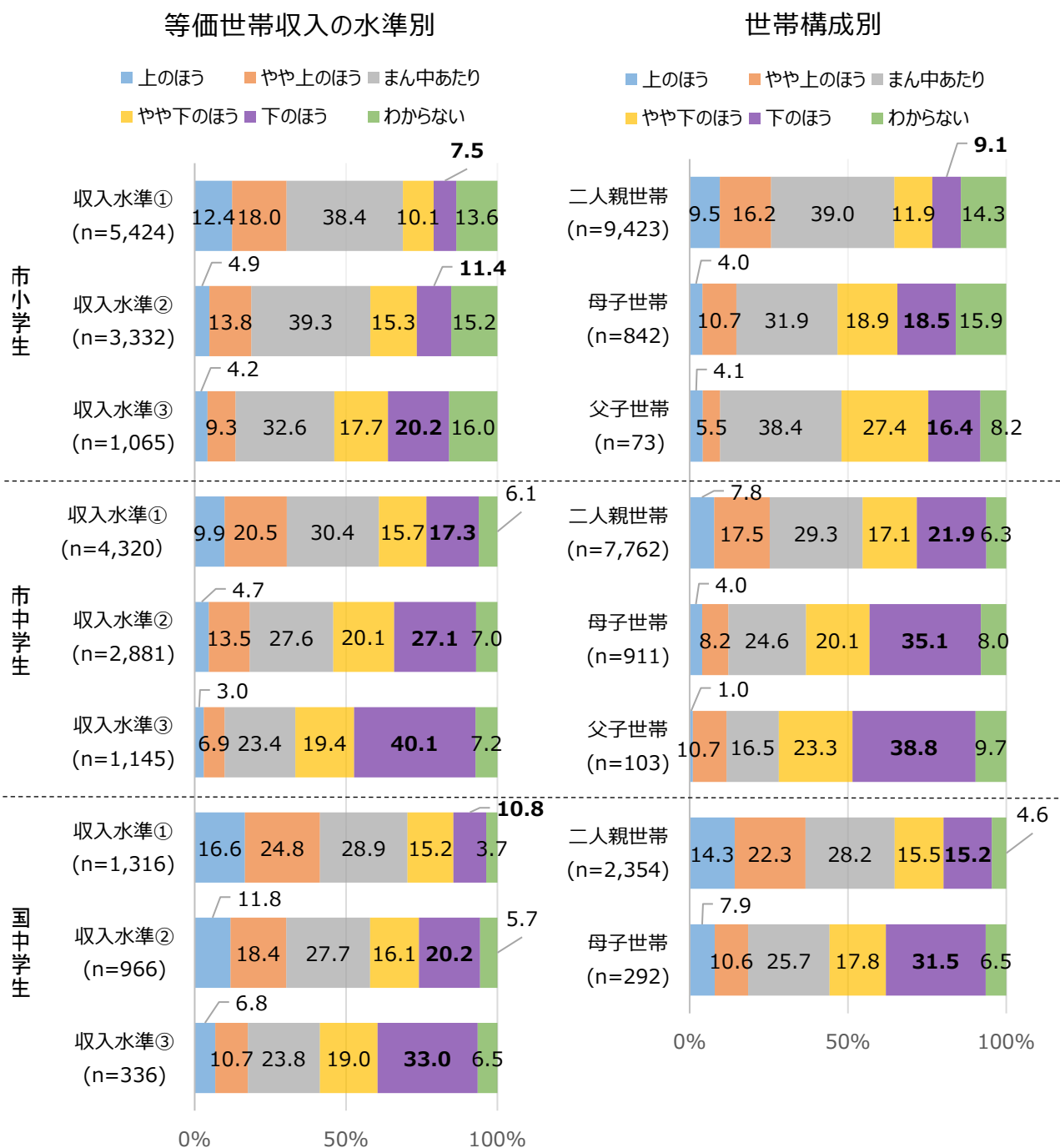
(1) 全国調査と共通の調査項目

全国調査の報告書「1. 1 分析結果の概要」に掲載されている項目を中心に、神戸市と全国における子どもの生活状況に関する比較を行った。

● 学習成績〔子ども調査票問4〕

クラスのなかでの成績について「下のほう」と回答した割合（■）は、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「等価世帯収入の水準別」では、市小学生では「収入水準①」7.5%に対して「収入水準③」20.2%、市中学生では17.3%に対して40.1%、国中学生では10.8%に対して33.0%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生では「二人親世帯」9.1%に対して「母子世帯」18.5%、市中学生では21.9%に対して38.8%、国中学生では15.2%に対して31.5%となっている。



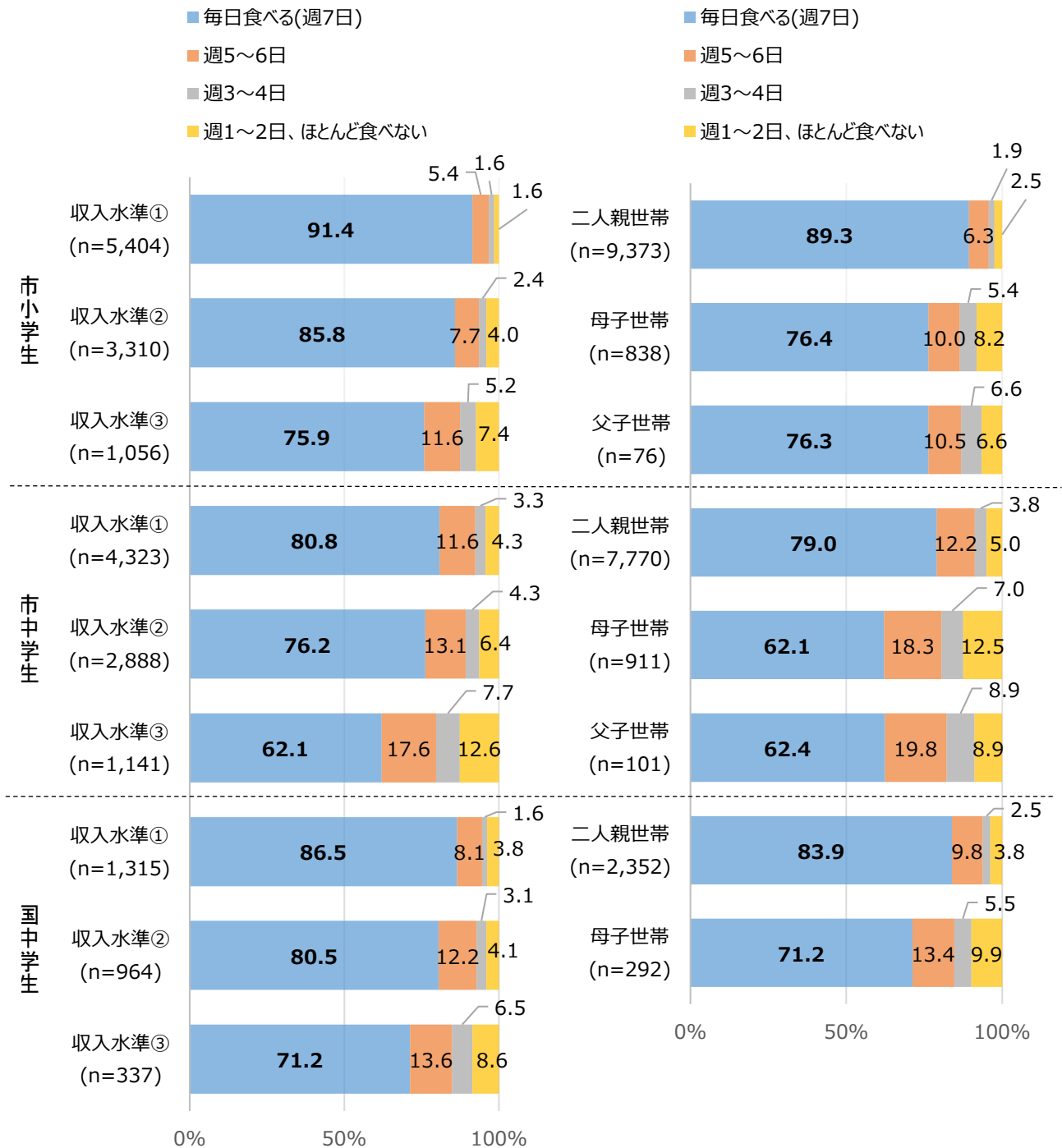
● 食事の頻度（朝食）〔子ども調査票問 12〕

「朝食」について「毎日食べる」と回答した割合（■）は、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で低い。


「等価世帯収入の水準別」では、市小学生では「収入水準①」91.4%に対して「収入水準③」75.9%、市中学生では 80.8%に対して 62.1%、国中学生では 86.5%に対して 71.2%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生では「二人親世帯」89.3%に対して「母子世帯」76.4%、市中学生では 79.0%に対して 62.1%、国中学生では 83.9%に対して 71.2%となっている。

等価世帯収入の水準別

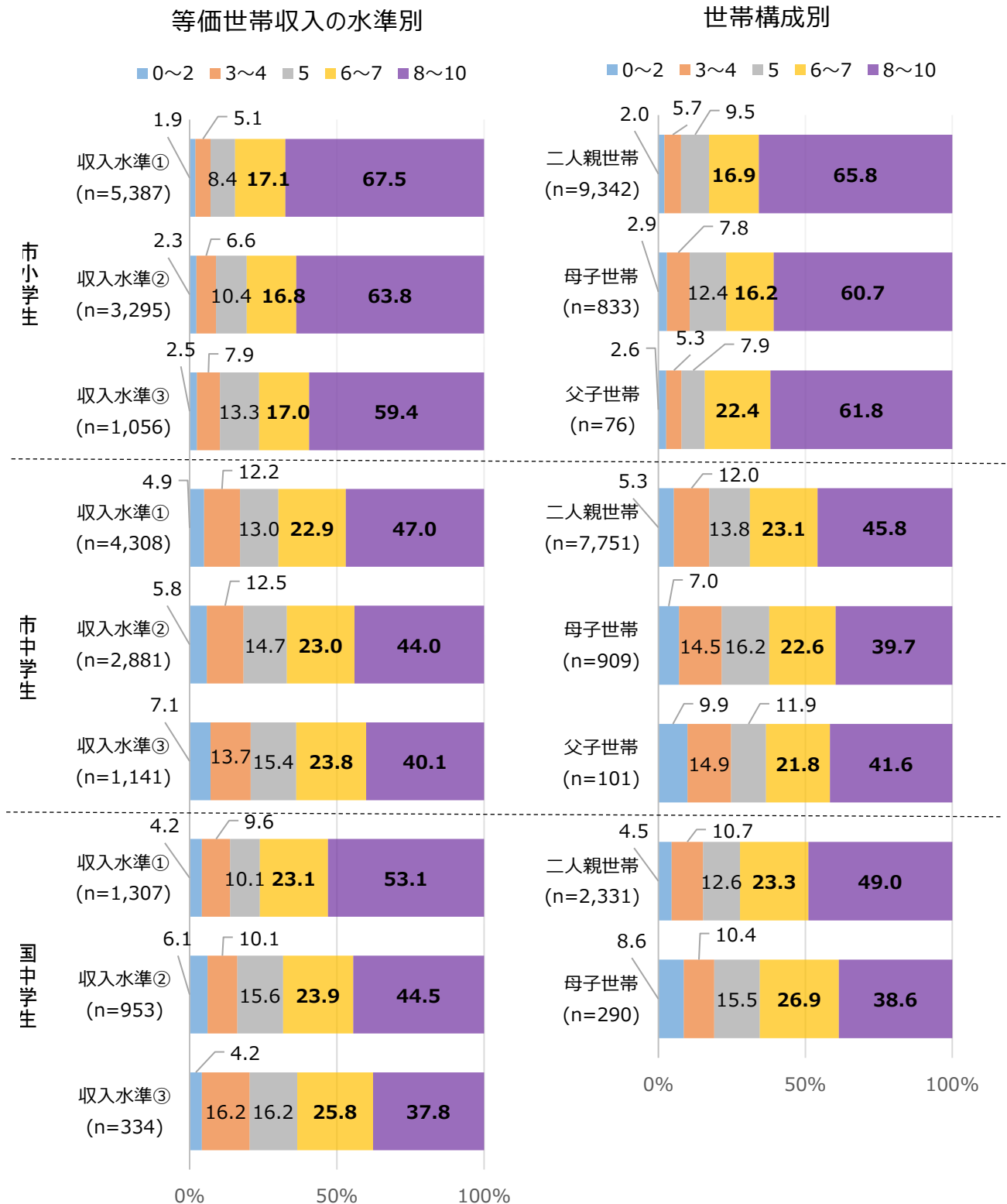
世帯構成別



● 主観的幸福（生活満足度）〔子ども調査票問 16〕

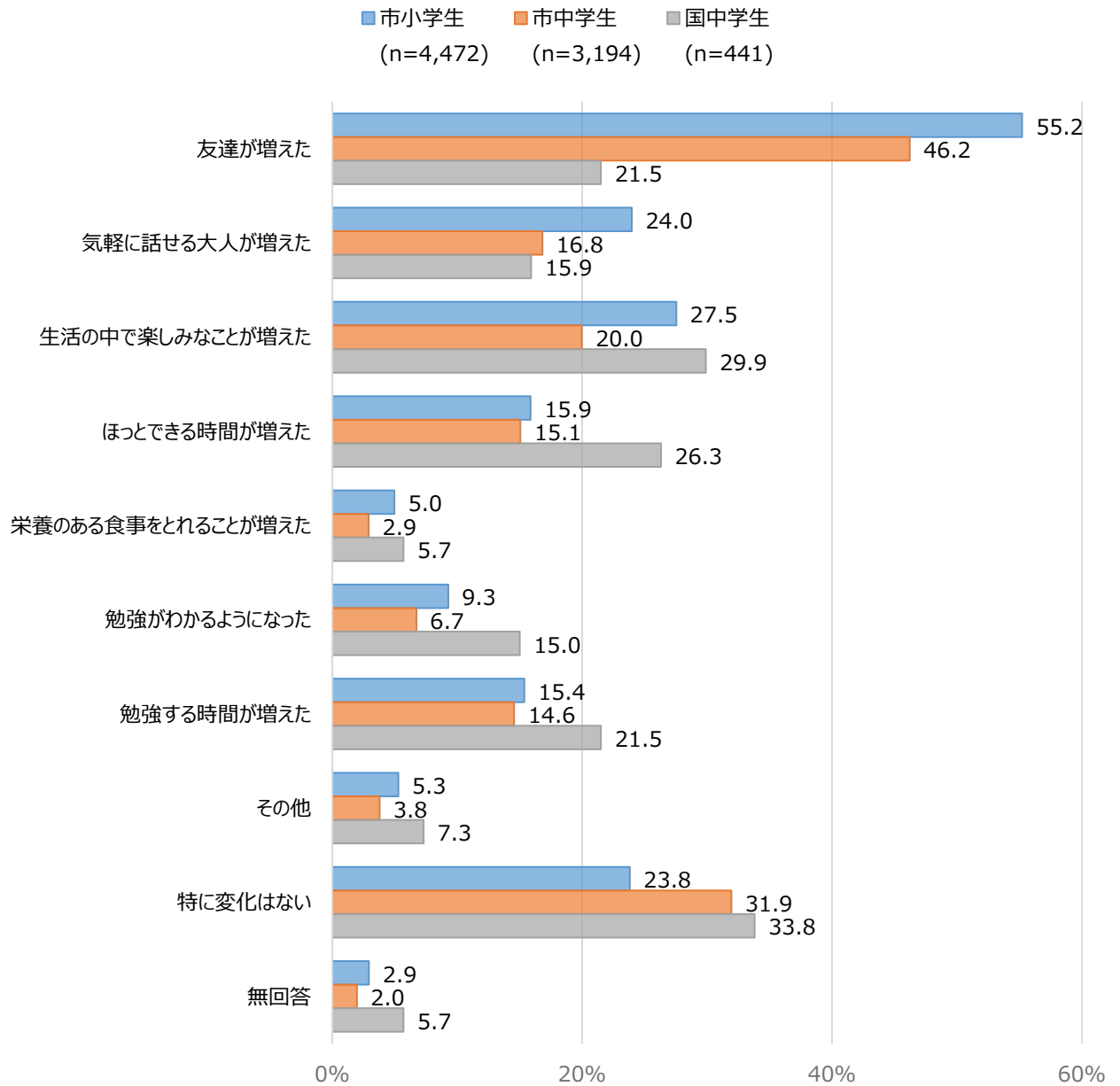
生活満足度が高い（10段階で6以上）と回答した割合（）は、等価世帯収入の水準が低い世帯や母子家庭で低い。

「等価世帯収入の水準別」では、市小学生では「収入水準①」84.6%に対して「収入水準③」76.4%、市中学生では 69.9%に対して 63.9%、国中学生では 76.2%に対して 63.6%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生では「二人親世帯」82.7%に対して「母子世帯」76.9%、市中学生では 68.9%に対して 62.3%、国中学生では 72.3%に対して 65.5%となっている。



● 支援の効果〔子ども調査票問 19〕（複数回答）

「学童保育」や「こども食堂」、「勉強を無料でみてくれる場所」などの支援制度・居場所等の利用により、「友達が増えた」、「気軽に話せる大人が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」などの変化があった。



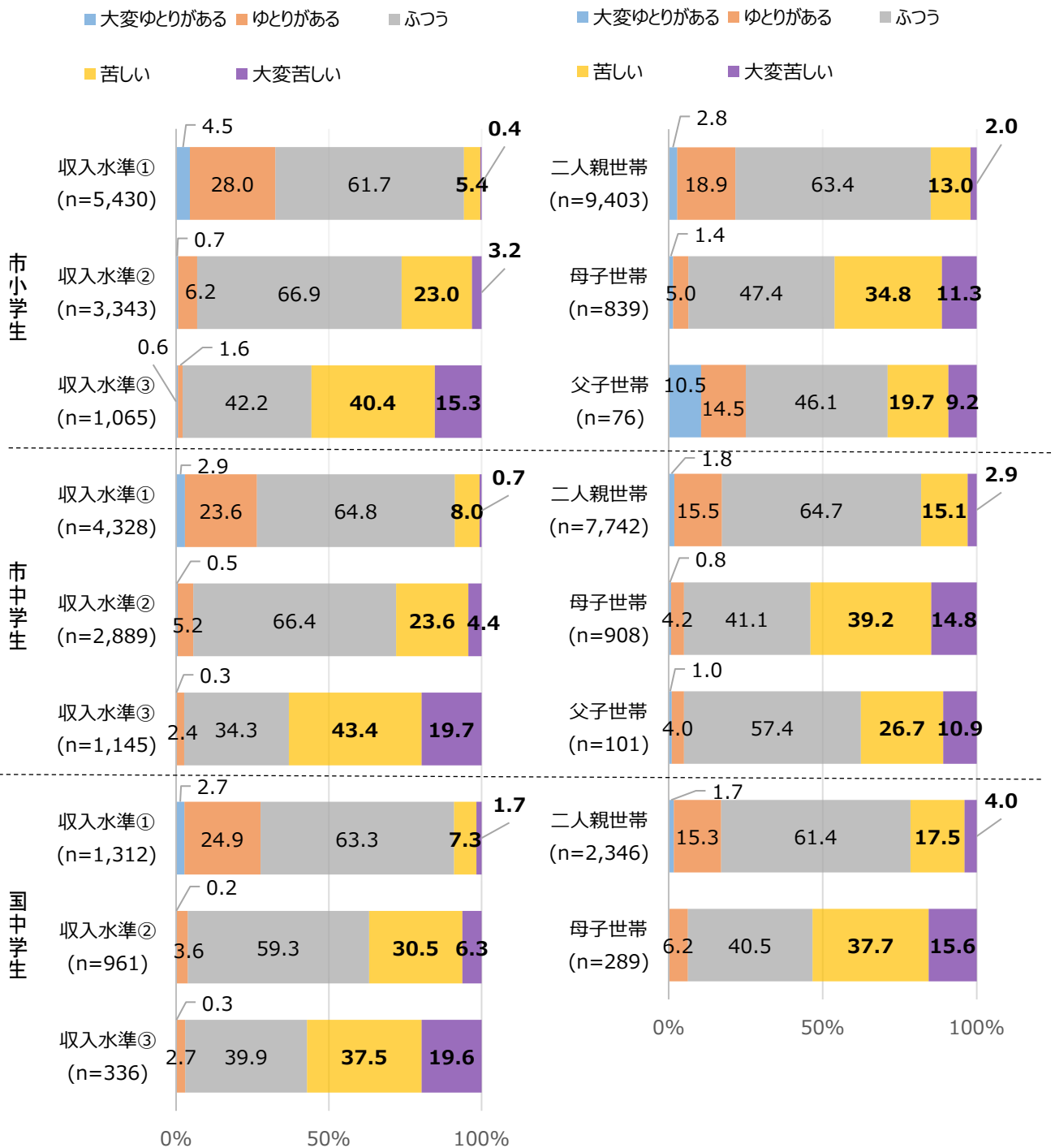
● 暮らし向き（主観）〔保護者調査票問 19〕

現在の暮らしの状況について「苦しい」または「大変苦しい」と回答した割合（■■）は、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「等価世帯収入の水準別」では、市小学生の保護者では「収入水準①」5.8%に対して「収入水準③」55.7%、市中学生の保護者では8.7%に対して63.1%、国中学生の保護者では9.0%に対して57.1%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生の保護者では「二人親世帯」15.0%に対して「母子世帯」46.1%、市中学生の保護者では18.0%に対して54.0%、国中学生の保護者では21.5%に対して53.3%となっている。

等価世帯収入の水準別

世帯構成別





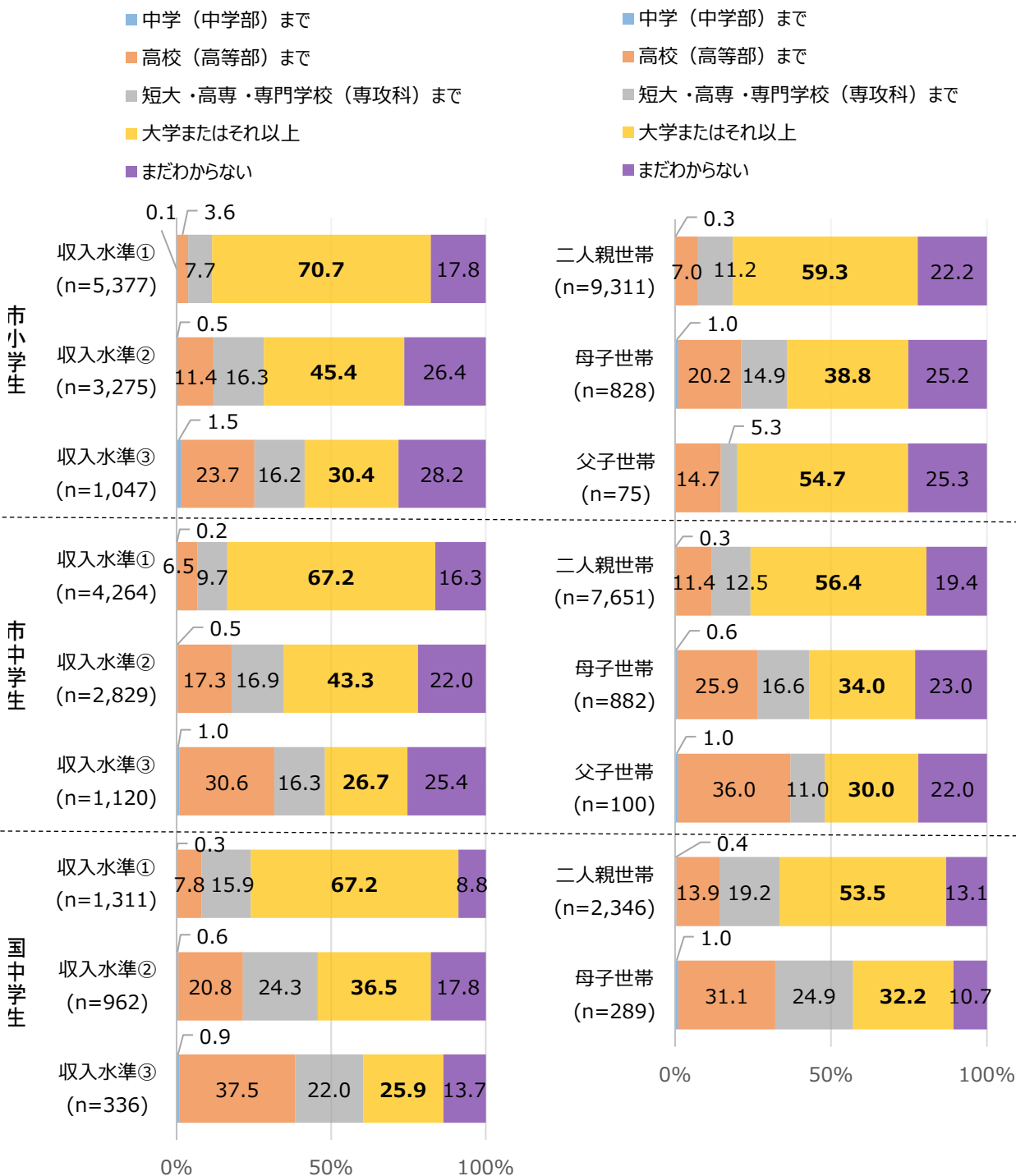
● 進学の見通し〔保護者調査票問15〕

子どもが将来どの段階まで進学すると思うかについて「大学またはそれ以上」と回答した割合（黄色）は、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で低い。

「等価世帯収入の水準別」では、市小学生の保護者では「収入水準①」70.7%に対して「収入水準③」30.4%、市中学生の保護者では67.2%に対して26.7%、国中学生の保護者では67.2%に対して25.9%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生の保護者では「二人親世帯」59.3%に対して「母子世帯」38.8%、市中学生の保護者では「二人親世帯」56.4%に対して「母子世帯」34.0%、国中学生の保護者では「二人親世帯」53.5%に対して「母子世帯」32.2%となっている。

等価世帯収入の水準別

世帯構成別



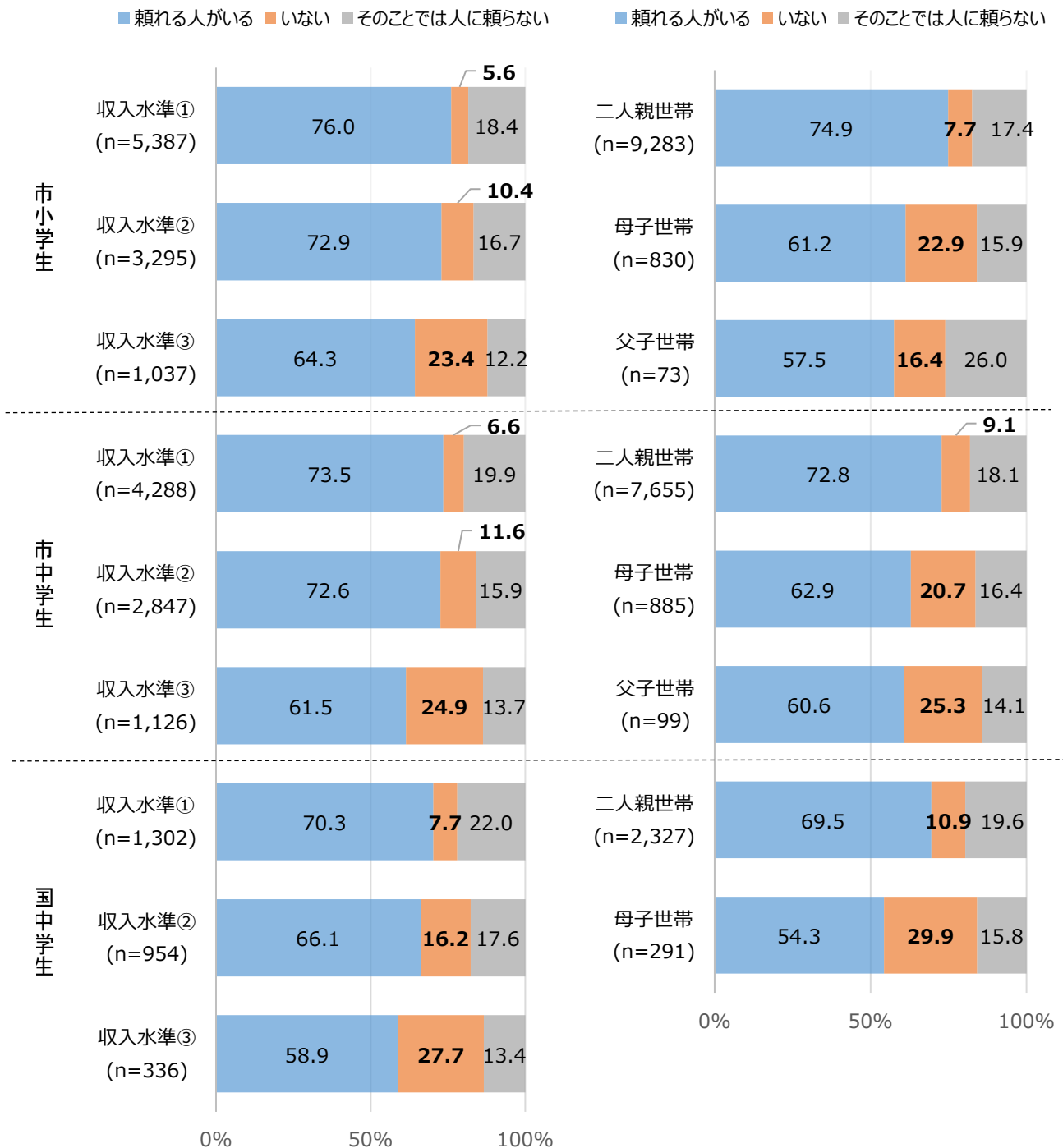
● 保護者の頼れる相手〔保護者調査票問 18〕

保護者（回答者）の頼れる相手について、例えば「いざというときのお金の援助」で頼れる人が「いない」と回答した割合（■）は、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「等価世帯収入の水準別」では、市小学生の保護者では「収入水準①」5.6%に対して「収入水準③」23.4%、市中学生の保護者では6.6%に対して24.9%、国中学生の保護者では7.7%に対して27.7%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生の保護者では「二人親世帯」7.7%に対して「母子世帯」22.9%、市中学生の保護者では9.1%に対して20.7%、国中学生の保護者では10.9%に対して29.9%となっている。

等価世帯収入の水準別

世帯構成別



● 精神状態〔保護者調査票問 27〕

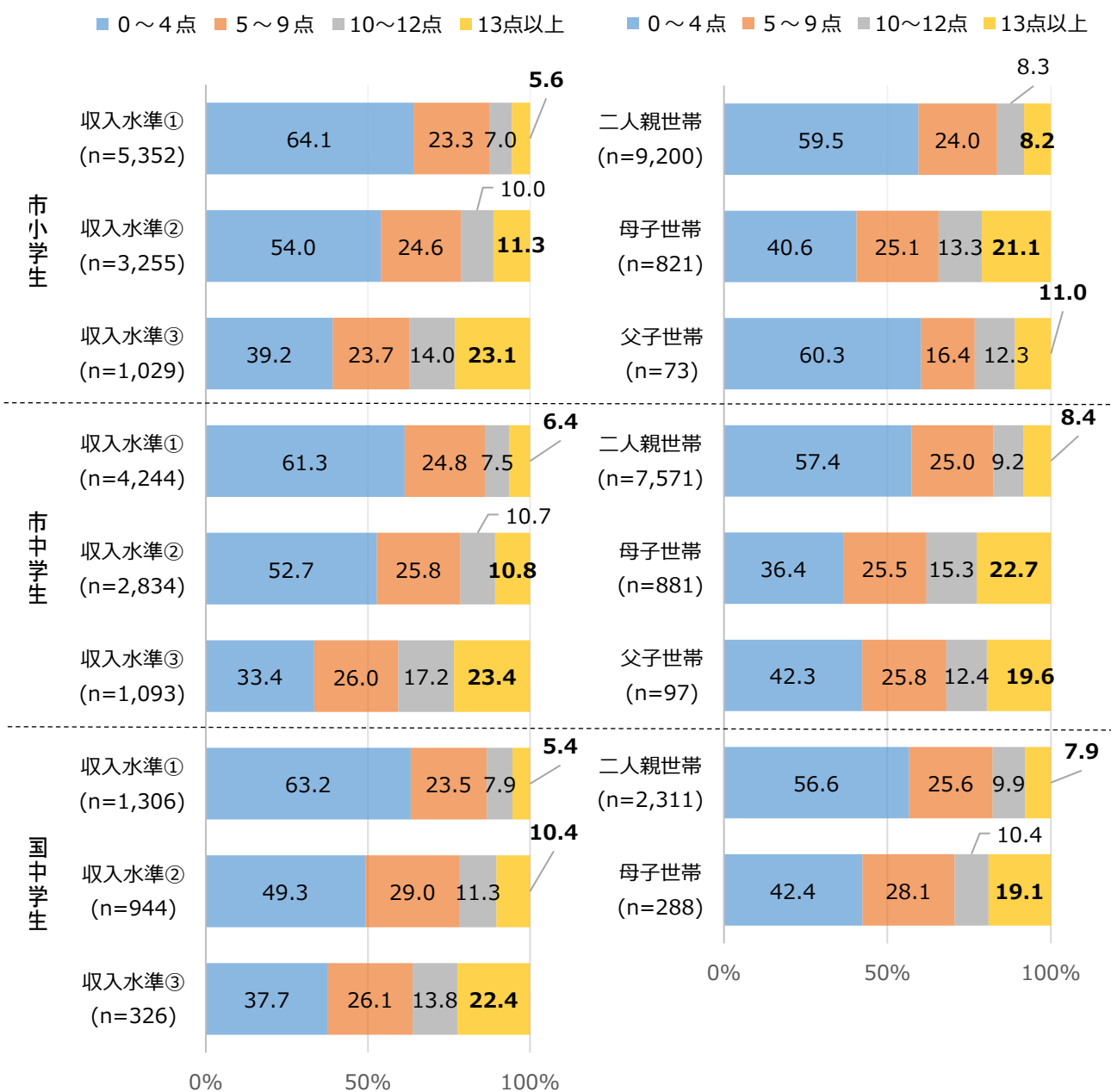
保護者（回答者）の精神状態について、「うつ・不安障害相当」（※）にあると考えられる割合（**■**）は、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「等価世帯収入の水準別」では、市小学生の保護者では「収入水準①」5.6%に対して「収入水準③」23.1%、市中学生の保護者では6.4%に対して23.4%、国中学生の保護者では5.4%に対して22.4%となっている。また、「世帯構成別」では、市小学生の保護者では「二人親世帯」8.2%に対して「母子世帯」21.1%、市中学生の保護者では8.4%に対して22.7%、国中学生の保護者では7.9%に対して19.1%となっている。

※精神状態については、「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの設問に対する回答を点数化し、24点中13点以上を「うつ・不安障害相当」に該当するとしている。

等価世帯収入の水準別

世帯構成別



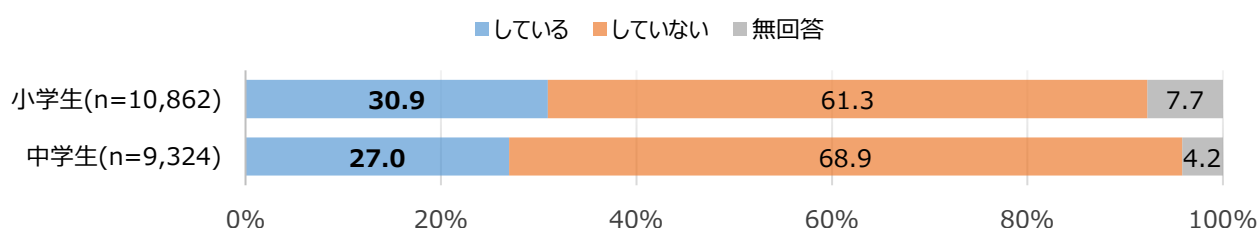
## (2) 神戸市独自調査項目

### ● 家族のお世話〔子ども調査票問 11〕

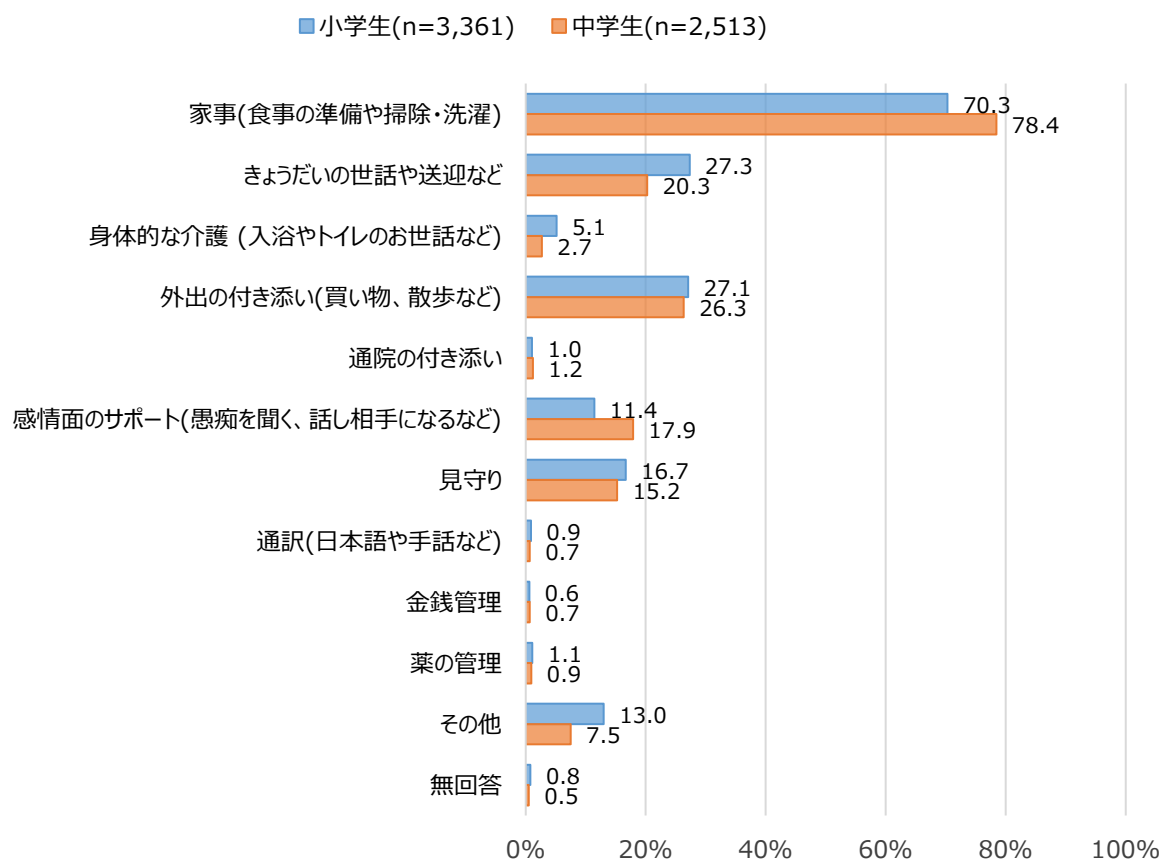
家族のお世話を「している」と回答した割合（■）は小学生 30.9%、中学生 27.0%であり、お世話の内容は、「家事（食事の準備や掃除・洗濯）」や「きょうだいの世話や送迎など」、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」などが多い。

また、家族のお世話を「している」と回答した子のうち、平日に1時間以上お世話をしている割合（■）は小学生 17.8%、中学生 19.0%であり、本調査の回答数全体における割合（■）ではそれぞれ 5.5%、5.1%であった。なお、本調査の回答においては、家族のお世話に一般的なお手伝いが含まれたと考えられる。

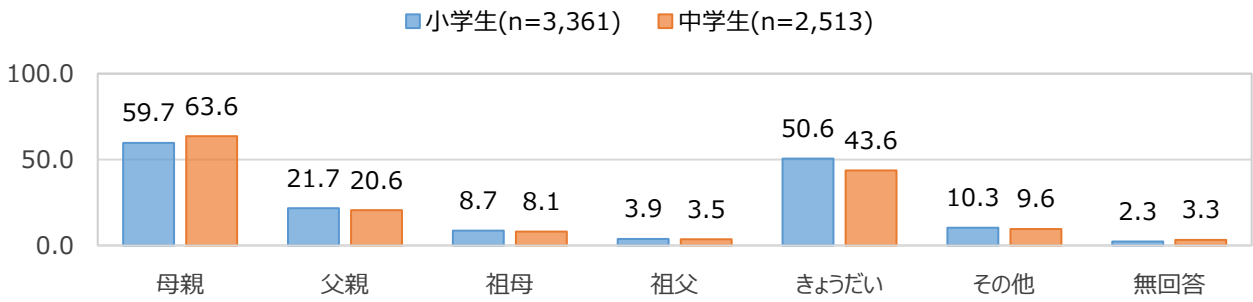
### 家族のお世話実施の有無



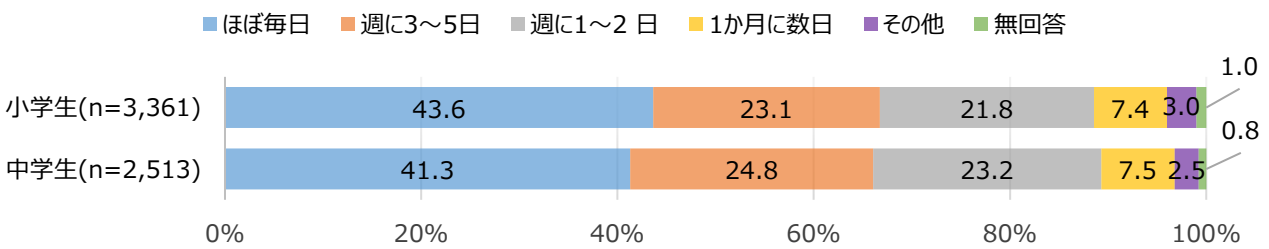
### お世話の内容（複数回答）



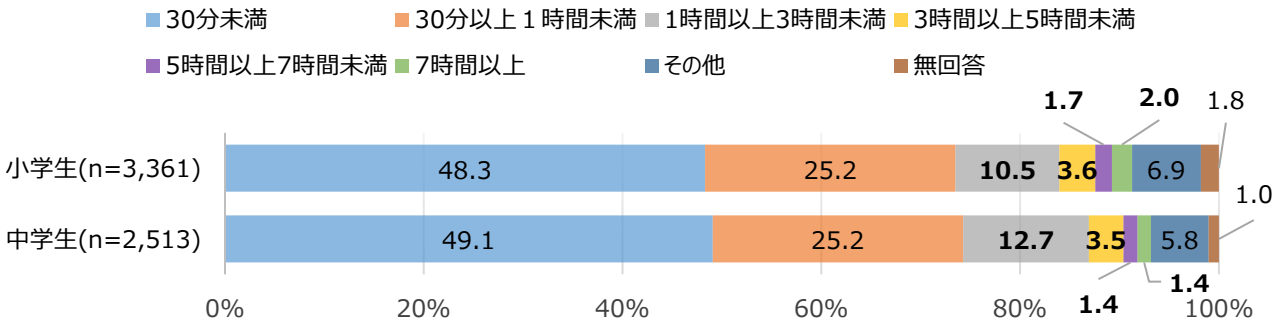
### お世話を必要としている人（複数回答）



### お世話の頻度

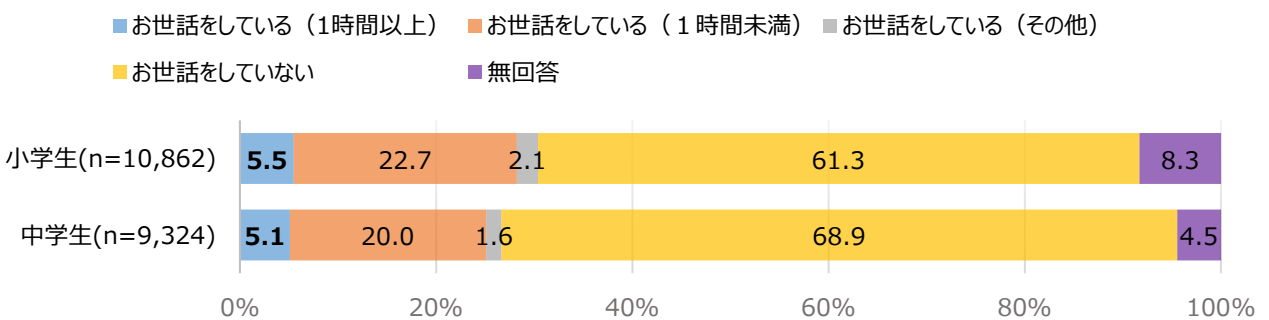


### 平日のお世話の時間



(参考)

### 平日のお世話の時間（回答数全体）

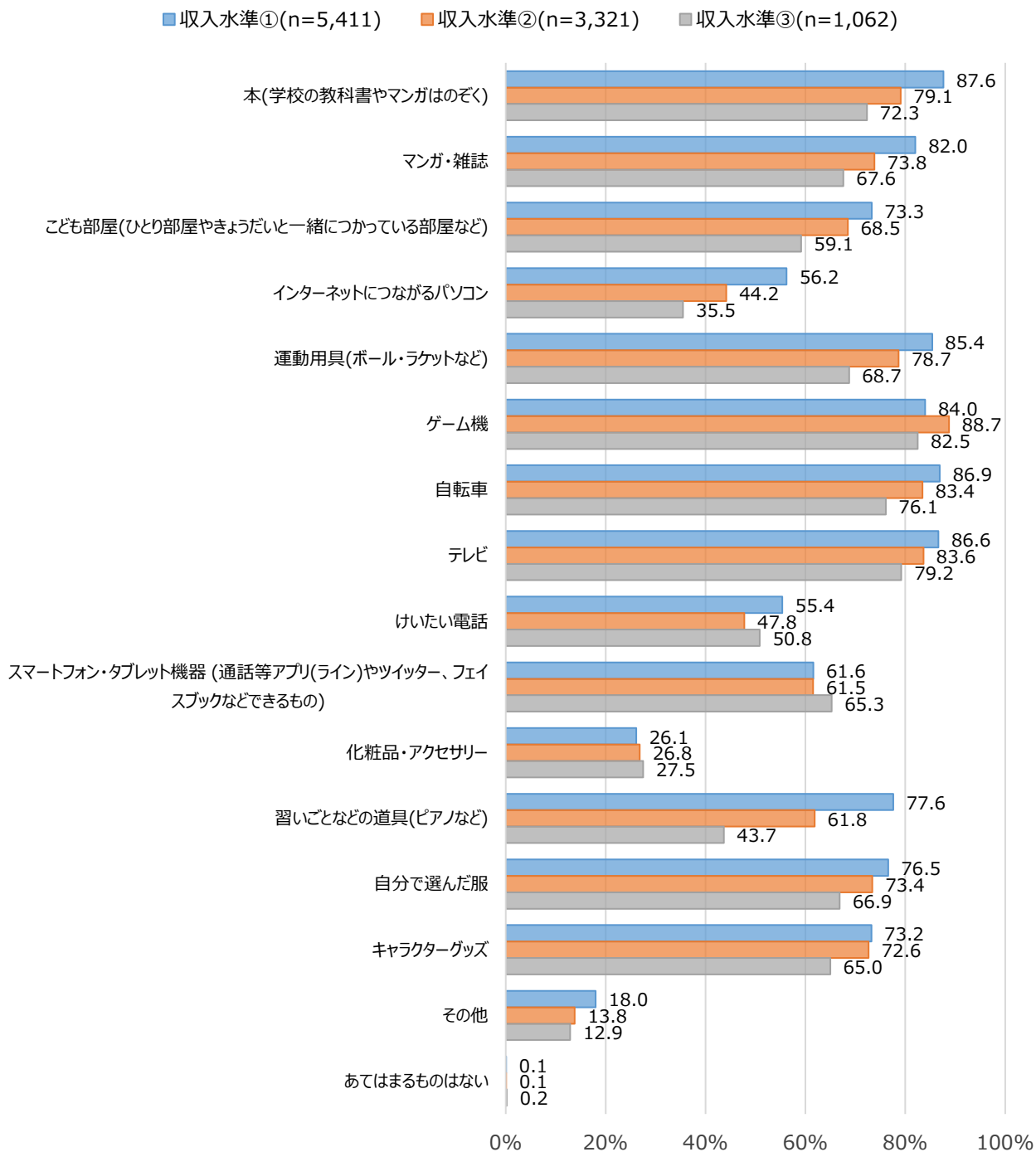


● 子どものはく奪指標〔子ども調査票問 20〕（複数回答）

本やパソコン、こども部屋などについて、「持っている」または「使うことができる」と回答した割合は、多くの項目で等価世帯収入の水準が低い世帯で低くなっている。特に、「習い事などの道具（ピアノなど）」や「インターネットにつながるパソコン」などで等価世帯収入の水準による差が大きくなっている。

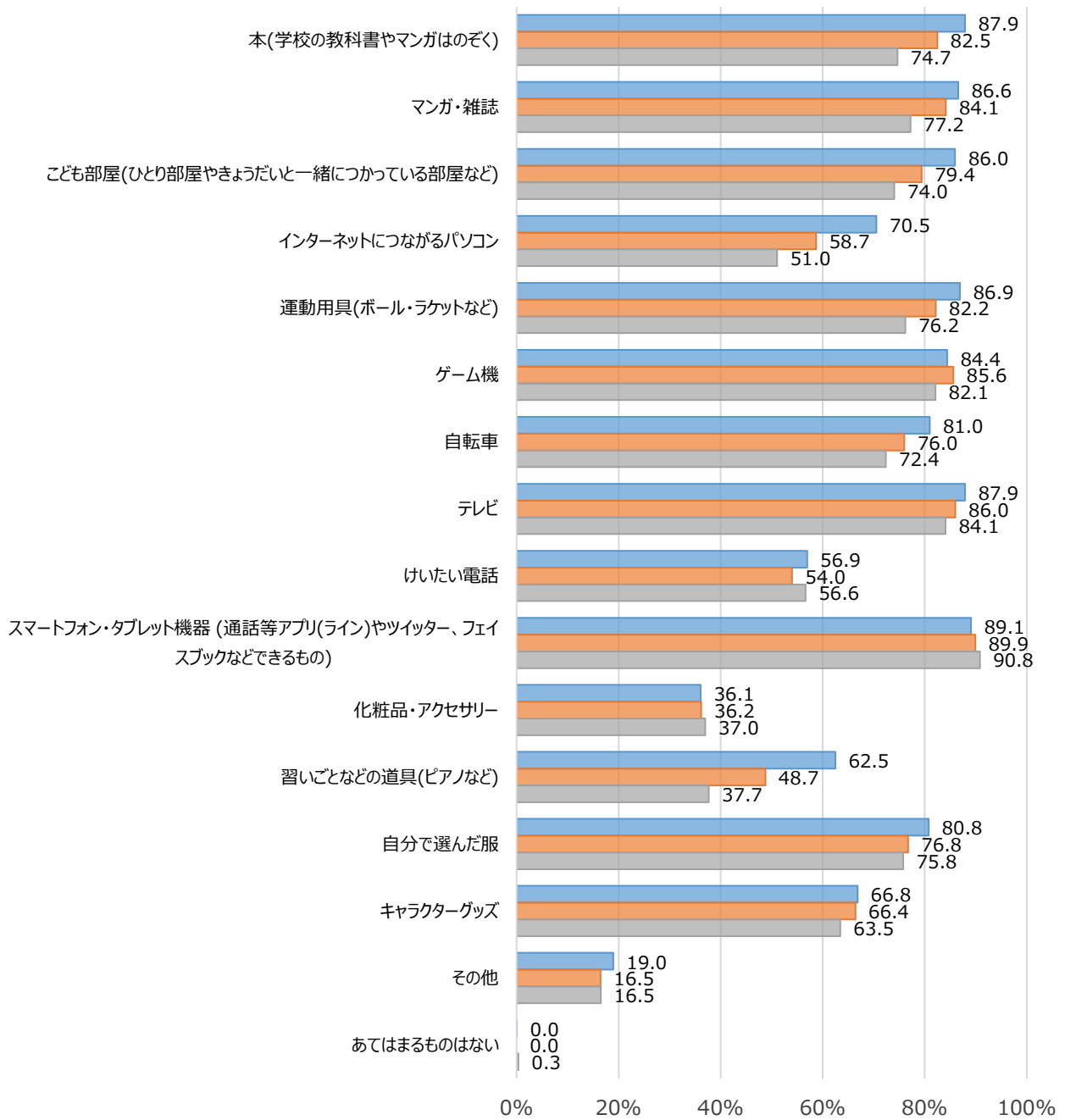
一方で、「スマートフォン・タブレット機器（通話等アプリ(ライン)やツイッター、フェイスブックなどできるもの）」や「化粧品・アクセサリ」は、等価世帯収入の水準が低い世帯の方が高い傾向にある。

小学生



## 中学生

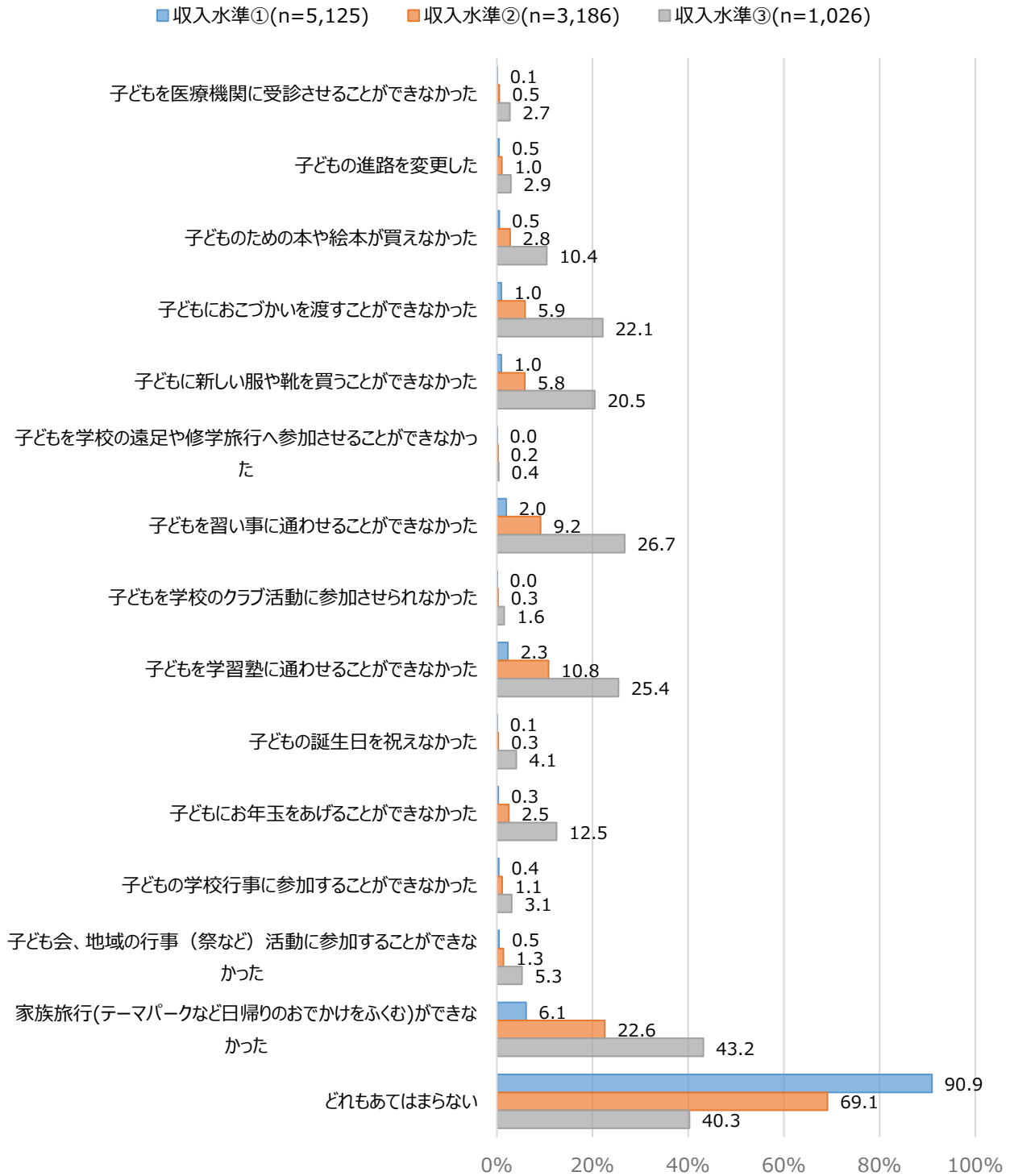
■ 収入水準①(n=4,314) ■ 収入水準②(n=2,878) ■ 収入水準③(n=1,144)



● 親から見た子どものはく奪指標〔保護者調査票問 22〕（複数回答）

経済的な理由により「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけをふくむ）ができなかった」、「子どもを習い事に通わせることができなかった」、「子どもを学習塾に通わせることができなかった」などの経験があると回答した割合は、等価世帯収入の水準が低い世帯で高い。

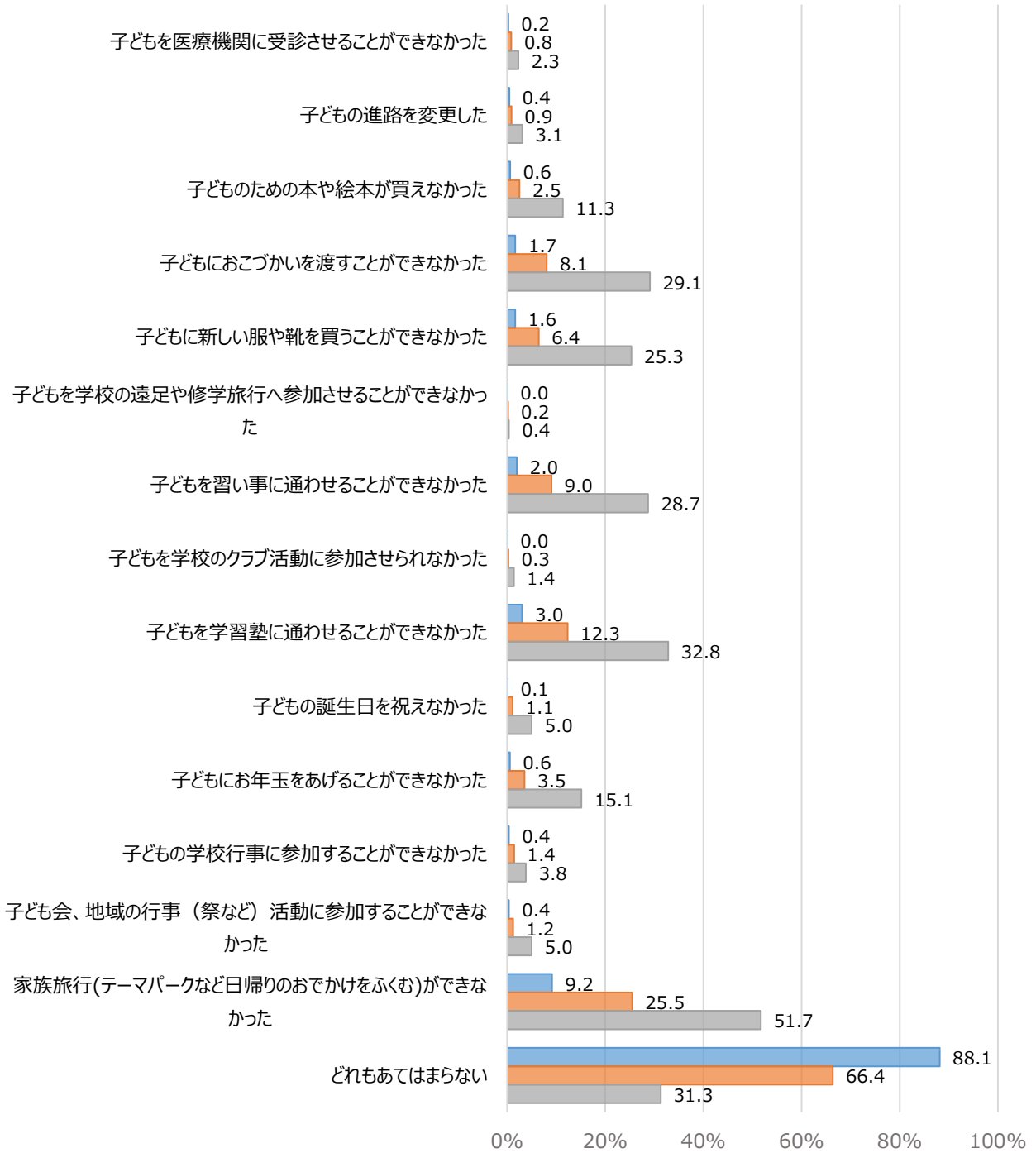
小学生





## 中学生

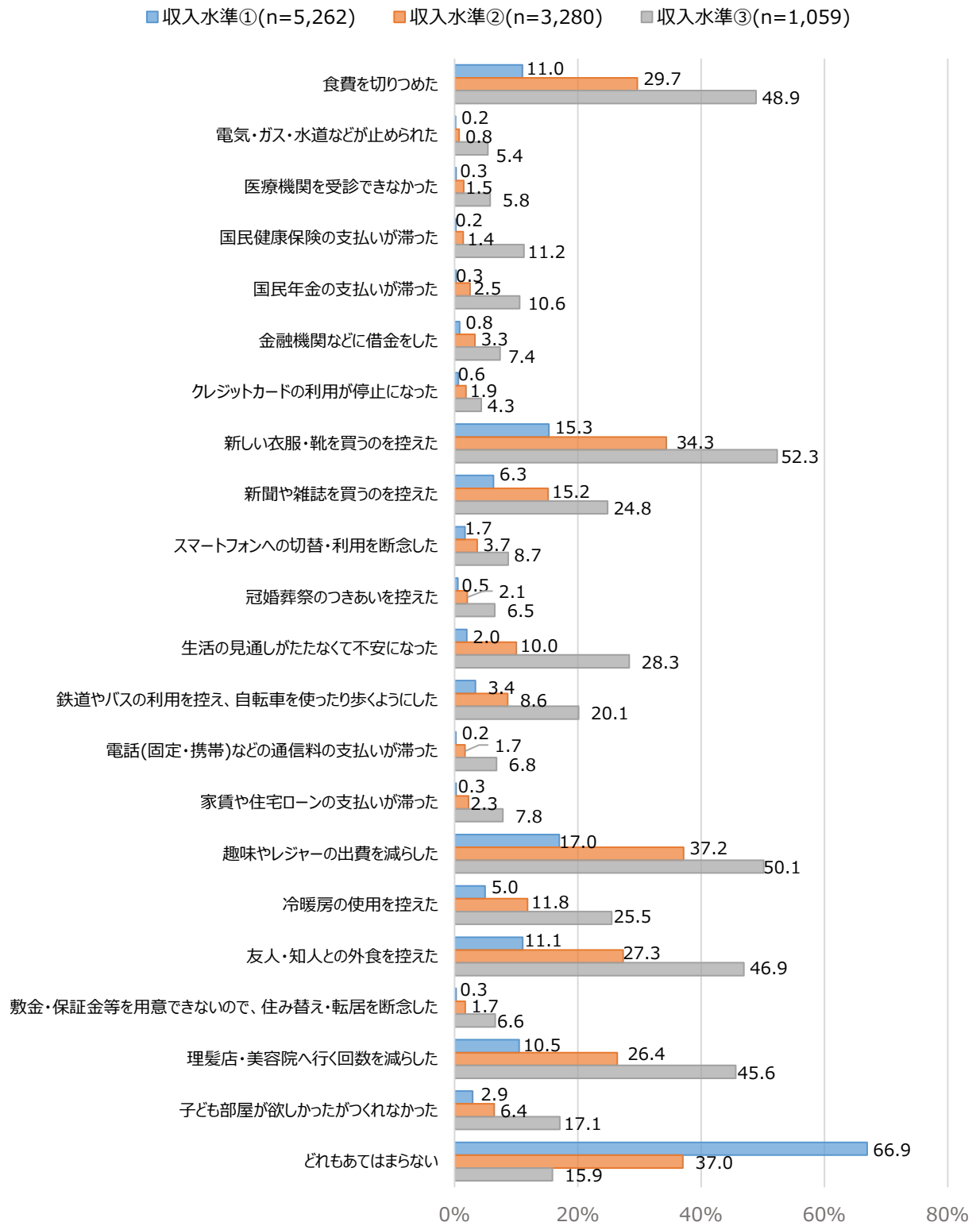
■ 収入水準①(n=4,117) ■ 収入水準②(n=2,768) ■ 収入水準③(n=1,103)



● 滞納・欠乏経験〔保護者調査票問 21〕（複数回答）

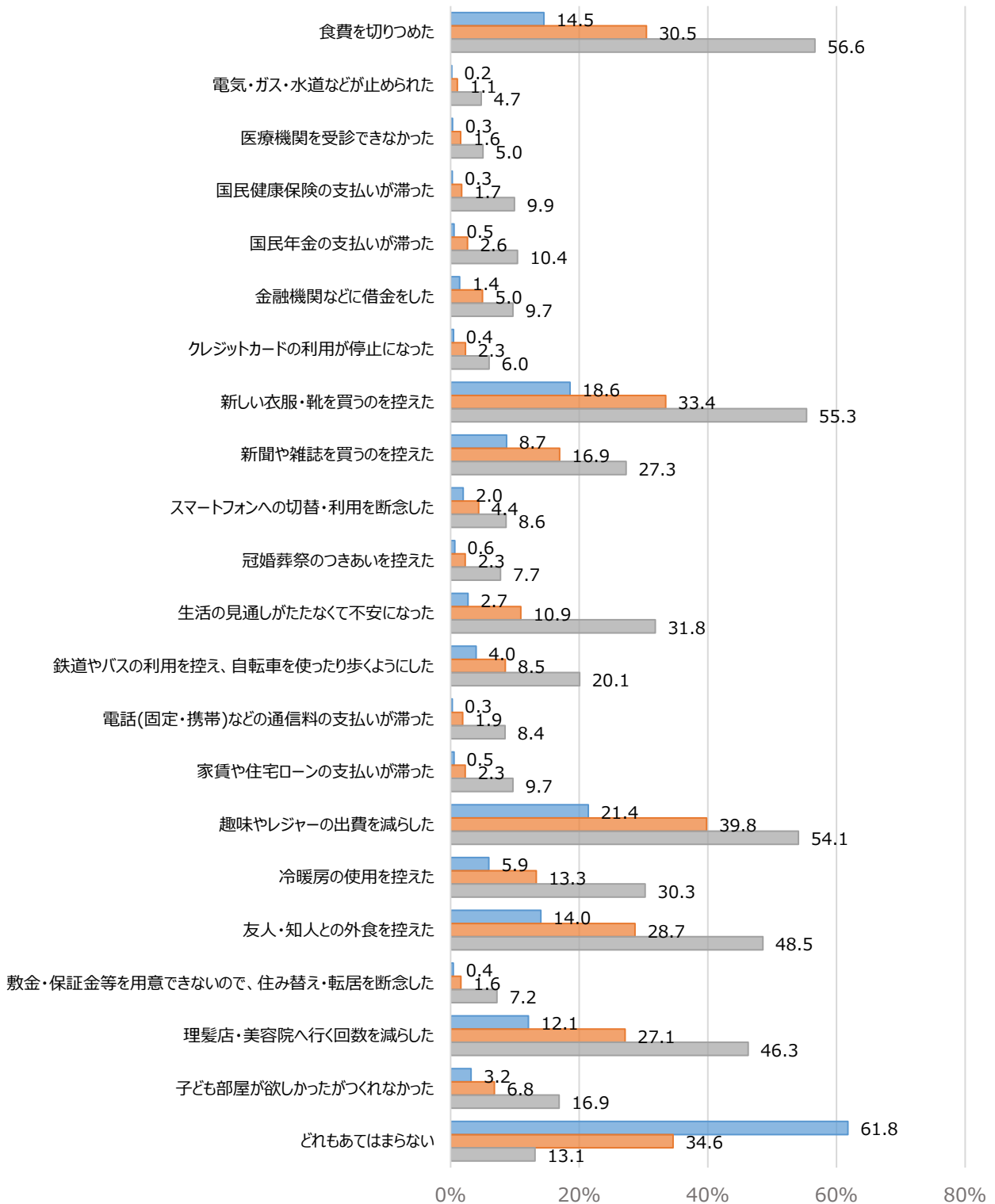
経済的な理由により、「食費を切りつめた」、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」、「趣味やレジャーなどの出費を控えた」、「友人・知人との外食を控えた」などの経験があると回答した割合は、等価世帯収入の水準が低い世帯で高い。また、回答数は多くないが、「電気・ガス・水道などが止められた」、「医療機関を受診できなかった」、「家賃や住宅ローンの支払いが滞った」などの経験においても、同様に等価世帯収入の水準が低い世帯で高い。

小学生



## 中学生

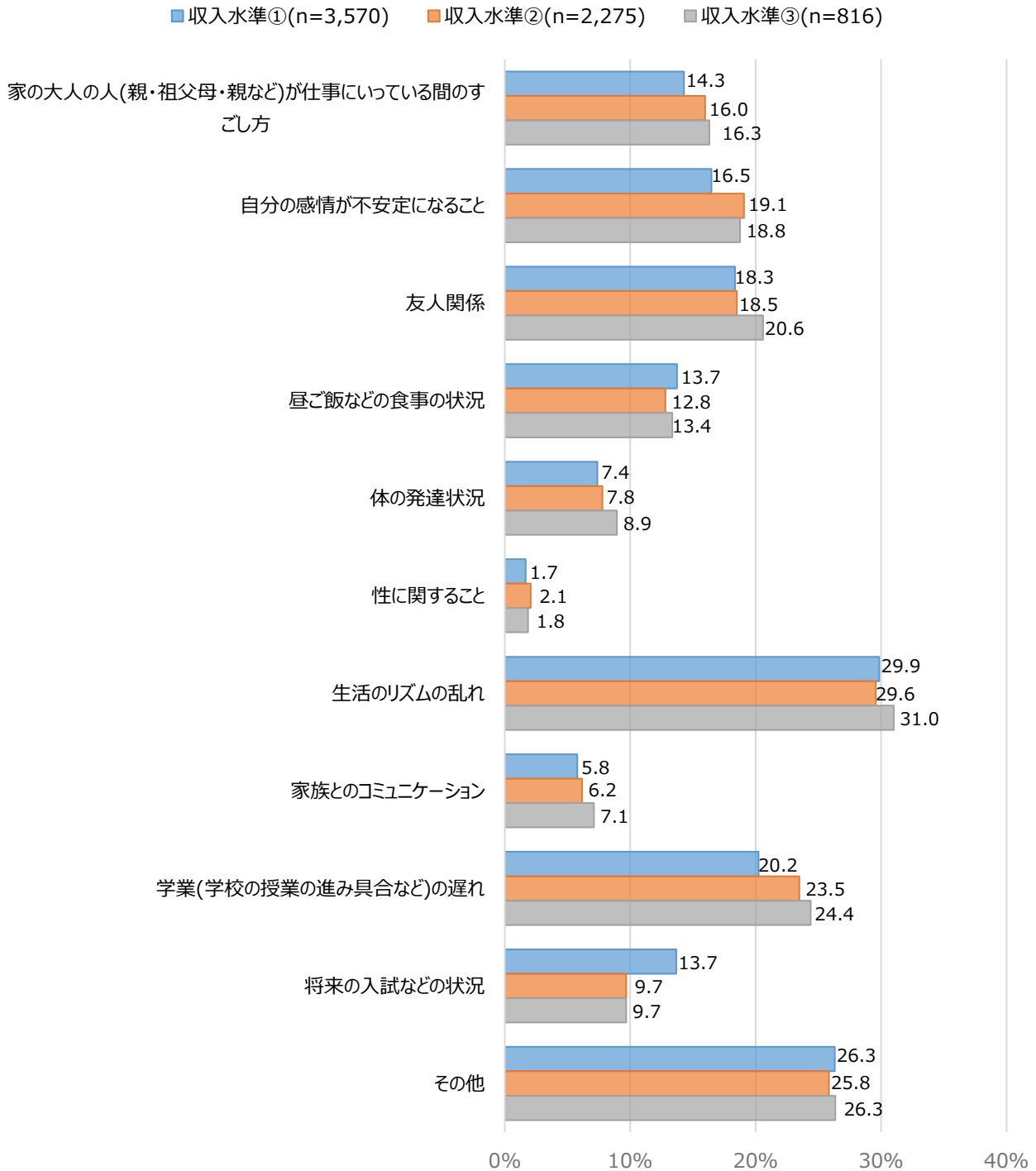
■ 収入水準①(n=4,236) ■ 収入水準②(n=2,857) ■ 収入水準③(n=1,137)



● コロナで困っていること〔子ども調査票問 23〕（複数回答）

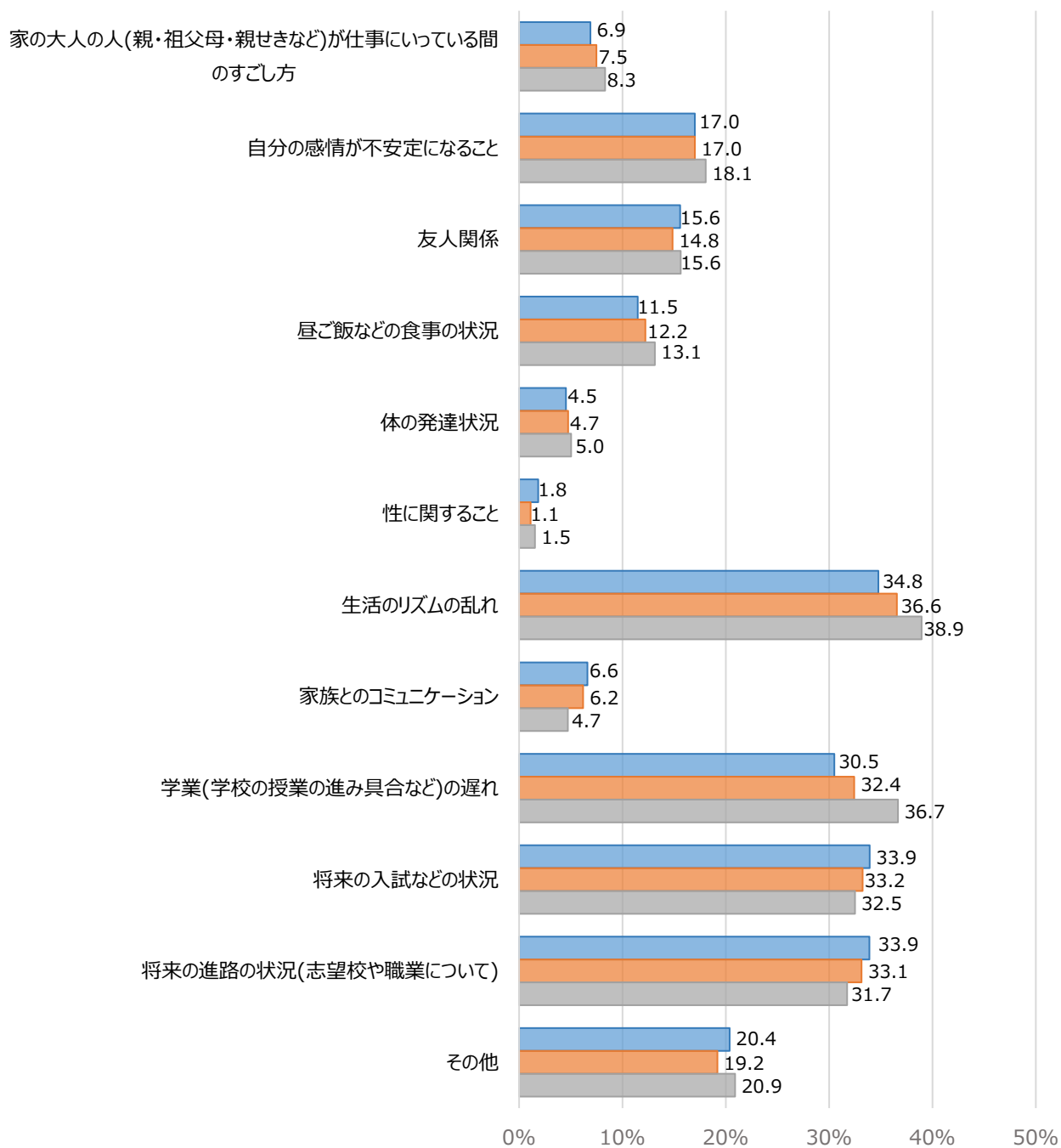
新型コロナウイルス感染症の影響で困っていることについて、「生活のリズムの乱れ」と回答した割合は、等価世帯収入の水準にかかわらず、すべての世帯で最も高い。また、学年別に見ると、小学生に比べ中学生では「将来の入試などの状況」や「学業(学校の授業の進み具合など)の遅れ」と回答した割合が高くなっている。

小学生



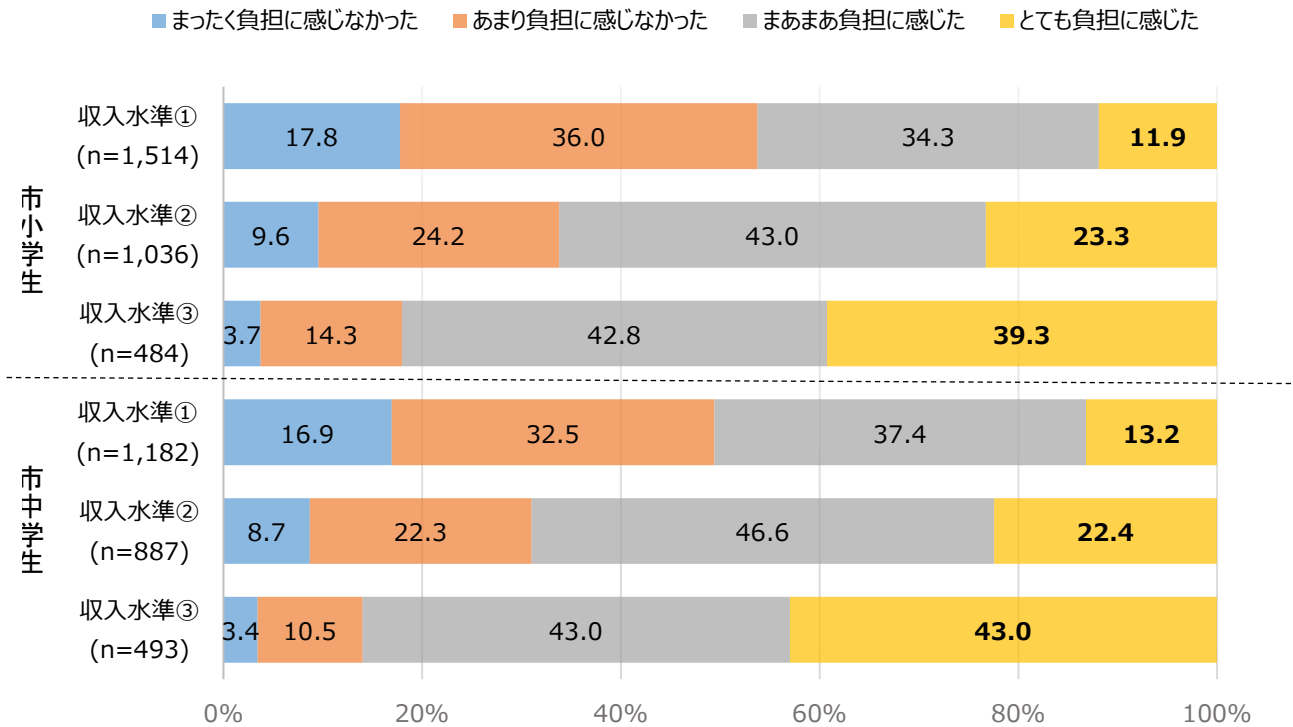
## 中学生

■ 収入水準①(n=3,251) ■ 収入水準②(n=2,257) ■ 収入水準③(n=914)



● コロナの仕事への影響と負担〔保護者調査票問 25〕

新型コロナウイルス感染症の影響により仕事に変化があった方のうち、仕事の変化を「とても負担に感じた」と回答した割合（黄色）は、等価世帯収入の水準が低い世帯で高く、小学生の保護者では「収入水準①」11.9%に対して「収入水準③」39.3%、中学生の保護者では13.2%に対して43.0%となっている。



3. まとめ

今回の調査結果については、おおむね国と同様の傾向であり、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯において、学習や生活、精神状態など様々な面で厳しい状況にあることが分かった。

具体的には、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもの学習成績や朝食の頻度、生活満足度が低い傾向にあり、保護者の頼れる相手がいない割合や不安定な精神状態にある割合が高くなっている。また、保護者から見た子どもの高等教育への進学見込みや子どもが持っているもの、様々な活動への参加機会等にも影響を与えていることが分かった。

ただし、中央値以上の世帯や二人親世帯でもこうした状況にある世帯が一定数見られることから、等価世帯収入の水準や世帯構成以外にも、様々な要因が影響していると考えられる。

また、家族のお世話については、一般的なお手伝いも含まれた回答になっているものと考えられるが、本調査の回答数のうち約5%が平日に1時間以上お世話をしていることが分かった。

さらに、新型コロナウイルスによる影響については、小中学生ともに、特に生活のリズムの乱れに表れており、中学生においては、学業の遅れや入試、進路などに対する不安が大きいことが分かった。